

平成 30 年度 第 1 回千代田区図書館評議会 議事要旨

【日時等】

実施日 平成 30 年 7 月 11 日（水） 10：00～12：00

場 所 千代田区役所 401 会議室

出席者 評議会委員（8名出席）

荻原 幸子（会長）、緑川 信之（副会長）、青柳 英治（評価部会長）

小野 祥之、木原 一雄、隈部 雅嗣

小林 敏、平林 奈緒恵

ゼネラルマネージャー 宮尾 賢一

千代田図書館長 小出 元一

日比谷図書文化館長 大島 康平

千代田区地域振興部文化振興課長 永見 由美

欠席者 評議会委員（1名）

常世田 良

【資料】

—当日配布資料—

- 1 平成 30 年度第 1 回千代田区図書館評議会議事次第
- 2 千代田区図書館評議会委員名簿
- 3 千代田区図書館評議会対象一覧

—事前送付資料—

- 1 平成 29 年度千代田区立図書館運営評価
- 2 平成 29 年度千代田区図書館評議会評議結果報告
- 3 平成 29 年度千代田区立図書館年報
- 4 平成 29 年度千代田区立図書館活動報告
- 5 平成 30 年度千代田区立図書館業務計画
- 6 平成 30 年度パフォーマンス指標

【次第】

- 1 開会
(1) 文化振興課長挨拶

2 報告

- (1) 平成 29 年度区立図書館運営の評価【文化振興課】
- (2) 評価に対する対応【区立図書館】

3 議題

- (1) 図書館評議会における平成 30 年度評価対象項目【協議】

4 その他

- (1) 次回日程

【議事経過】

1 開会

<(1) 文化振興課長 挨拶>

文化振興課長より挨拶と指導課の委員交代の連絡を行った。

2 報告

<(1) 平成 29 年度区立図書館運営の評価【文化振興課長】>

文化振興課長より、「平成 29 年度 千代田区立図書館運営評価」P.1 評価(報告)に基づき、平成 29 年度評価について報告。

<(2) 平成 29 年度評価に対する対応【区立図書館】>

ゼネラルマネージャー、千代田図書館長及び日比谷図書文化館長により、資料「平成 29 年度 千代田区立図書館運営評価」P.16 評価に対する対応 (4) 図書館評議会による評価に基づき、対応状況についての報告及び質疑応答。

委員： 本題に入る前に、年報と活動報告について質問したい。

「平成 29 年度千代田区立図書館活動報告」P.3 の組織図には児童という担当がないが、P.36 の事業実施状況の担当の欄に記載されている「児童」というのは、何を示すのか。

また、「平成 29 年度千代田区立図書館年報」の P.23 に利用者統計が出ているが、インターネットの利用数やデジタル送信サービスの利用数の統計は載せないのか。

千代田図書館長： 千代田図書館では図書サービス部門の図書サービス管理の中に児童担当がいる。また、四番町図書館でも図書サービスの中に児童担当がいる。事業実施状況の担当欄の「児童」というのは、児童担当ということである。

統計数値の掲載については検討する。

委員： 商用オンラインデータベースの利用数は、日比谷図書文化館に比べ千代田図書館のほうが多いが、端末の数は日比谷図書文化館の 4 台に対し、千代田図書館は 2 台しかなく、利用基準も日比谷図書文化館より厳しいが、見直しできないのか。

千代田図書館長： 所管課と相談して、対応を検討する。

会 長： では、図書館評議会による評価に対する指定管理者の対応状況について報告をお願いしたい。

千代田図書館長： 「平成 29 年度 千代田区立図書館運営評価」P.16 (4) 図書館評議会による評価に対する対応ということで、初めに、P.17【評議会委員による平成 30 年度に向けた提言】の①ホームページの公開停止についてから④職員の待遇面についてまでをゼネラルマネージャーから報告する。

ゼネラルマネージャー： ①ホームページの公開停止についての経緯と対応を P.22 の【別紙 1】にまとめている。

平成 29 年 11 月 8 日より千代田区立図書館ホームページが長期にわたり公開停止になり、ご迷惑をおかけし申しわけなく思っている。できるだけ早く復旧するよう様々な検討をしたが、詳細な調査を行った結果、安全を確保するためにはかなりの時間を要することから、結果的に新ホームページ公開前までに復旧することが出来なかった。

利用者の方への影響を少しでも軽減するための対応として、ナクソス・ミュージック・ライブラリーについては、図書館ホームページからではなく、IDなどを交付して、自身のパソコンから直接無料で利用できるようにした。また、予約本の連絡については、メールの代わりに電話やはがきで対応した。

利用できなかったサービス (P.23) としては、Web-OPAC による蔵書検索のほか、内務省委託本、古書販売目録などの検索や、マイページから個人の利用状況や予約資料などの確認ができなくなったほか、各種メールサービス等の情報提供ができなくなった。また、千代田 Web 図書館の利用、Web からのイベントの申し込みや貸施設の予約もできなくなったため、電話や窓口で対応をした。

影響が考えられる統計数値 (P.23) としては、千代田図書館の 11 月から 3 月までの入館者数で 1 日平均約 100 名の減少になり、区外の方の新規登録者数も、千代田、四番町、昌平、神田で昨年比 61~63%、日比谷では 85%になった。また、区外の貸出冊数も同じような傾向で、千代田、四番町、日比谷で昨年比 70~75%、昌平、神田では 80%という実績となったが、区内在住の方の新規登録者数などは昨年とあまり変わりがなかった。

区外の方は、Web による蔵書検索や予約等ができなかったため、図書館に来る前の準備ができなかったことが一番の課題ではなかったかと分析している。

研修室、会議室等の貸施設利用も、ネット予約ができなかった影響がでている。

在住・在学の方の利用は大きな変化が見られなかったが、ビジネスマンの利用も少し減っているという状況であった。

P.24 にホームページやアクセスの不具合に関する問い合わせの状況を記載しており、個人情報の流出がなかった。

委 員： 侵入された原因はパスワードの管理体制の不備か。

ゼネラルマネージャー： 情報セキュリティに関する管理体制が不十分であった。不正なアクセス攻撃により、ホームページの一部のプログラムが改ざんされた。

委 員： 今回の影響は、入館者数に出ているという報告であったが、予約サービスに一番影響が出ているのではないか。その影響をどのように認識しているのか。

検索して予約するということが Web の重要な役割であり、その機能が長期間停止するというのは非常に問題である。代替のサーバを用意し、予約だけでも受けつけるようなことは考えなかったのか。

ゼネラルマネージャー： 予約の減少については、区外の方が Web で予約をして来館をすることができなかったため、入館者数とあわせて減っている。また、安全性を確保した新しいサーバを用意するためには相当な時間が必要なことから、3月の新システム稼働より前に準備することができなかった。

委員： どこから攻撃されたのかわかっているのか。

ゼネラルマネージャー： 経由地はウクライナということだが、出元を調査するのは困難である。

委員： 影響については去年との比較しかしていないが、たまたま去年、来館者多かったという可能性もあるので、少し前の過去も含めて比較したほうがよいと思う。

会長： P. 24 の最後の説明で、「実害の連絡はなかった」とあるが、これは個人情報の流出に関する連絡はなかったということか。

ゼネラルマネージャー： P. 24 のアクセス不具合に関する問い合わせの一番目のとおり、千代田区立図書館ホームページにアクセスしたところ、PCがウイルス感染したのですぐに電話するよう誘導され、クレジットカードの番号を伝えてしまったが、クレジット会社にすぐに停止の連絡をしたので、それに伴う被害はなかったというように、金銭的な被害の報告はなかったという意味である。

会長： 個人情報の流出はなかったということを確認しているというのならば理解できるが、実害はなかったというのは個人的にはかなり引かかる。

委員： アダルトサイトに飛ばされたということだと思うが、そのような状況はどのぐらいの期間続いたのか。

ゼネラルマネージャー： 極めて短い時間だった。

委員： 短い時間でもこれだけの報告が上がってきており、それに気づいてから復旧を断念するまで2ヵ月かかっている。断念した業者と、新システムをつくった業者は同じ業者か。

ゼネラルマネージャー： 別の事業者である。

会長： それではP. 17に戻って、②組織について。

ゼネラルマネージャー： 平成 29 年度から5館一体になり、2つの指定管理者グループが1つになったということで、組織の状況がわかりづらいというところがあったかと思う。重複している総務・経理部門については、千代田図書館と日比谷図書文化館の業務として絶対必要な部門ということで、それぞれに置いている。5館一体になったので、中央館である千代田図書館が主導をし、整理を進めているところである。同様に企画、広報、コンシェルジュについても、それぞれの地域性があることから、各業務を担当する職員が必要になったため、組織図ではそういう表記になっている。そのため、一体感がないように見えるという指摘をいただいている。業務を中心とした組織図がつかれないかと検討はしているが、まだ提示できるところまでは行っていない。ゼネラルマネージャーを中心とし、窓口も中央館にできるだけ絞って一本化していくようにしていきたい。

会長： では、P. 17 の③パフォーマンス指標から⑥児童サービスまでまとめて報告をお願いします。

ゼネラルマネージャー： ③パフォーマンス指標（P.25 別紙2）については、平成29年度の結果や、評議会の提言等を踏まえ、平成30年度のパフォーマンス指標を作成した。

“基礎数値”の指標としては、新たに、ホームページのアクセス数を加えた。新たなホームページになったので、4月の1日当たりのセッション数をベースに目標値を設定している。入館者数については、29年度は目標値を大きく下回ってしまったが、30年度も目標値を変えず再チャレンジすることとした。

“①千代田区ゲートウェイ”の指標では、周辺情報・区内の情報の発信・提供を新たな指標としている。“②セカンドオフィス”におけるビジネス資料の充実の指標としては、ビジネス関連図書の充実度を新しく入れた。年2回実施している来館者アンケートの質問項目における満足度を指標にしている。同じくアンケートの活用ということで、“④クリエイトする書庫”の指標として、蔵書の満足度も指標にしている。“⑤ファミリーフィールド”では、親子参加イベントにおける区民の参加率を調べて目標にするということで新たに加えている。

指摘のあった目標値の設定については、極力29年度の実績以上の目標値になるようにしている

では、次のP.17④職員待遇面については、質の高いサービスを確保するためには力量のある職員が不可欠だと考えている。指定管理者の各構成企業の規約や、区の労務環境のモニタリング結果なども踏まえて取り組んでいる。今回の提言についても、各構成企業に報告している。

千代田図書館長： 次のP.17⑤読書振興センターについては、「学習センター」としての役割として、授業内容に合わせた資料の準備や提供のほか、読書相談やレファレンスも行っている。「情報センター」としての役割としては、毎年各クラスの学齢に合わせたオリエンテーションを実施し、教員との連携を図っているほか、年2回開催している学校図書館連絡会においても問題意識の共有やコミュニケーションの円滑化を図っている。今後はもう少しきめ細やかに進めていこうと思っている。

次のP.17⑥児童サービスについては、四番町図書館の建替え計画に伴う仮施設への移転ということも考慮し、まちかど図書館を充実させる方向で検討していきたい。また、ブックリストの作成等については、館ごとではなく、今後統一した形でつくっていくよう検討を進めていきたい。児童サービス専門職員のスキルアップについては、今後、外部研修への参加回数を増やしていく予定である。

会 長： パフォーマンス指標については、評議会の提言に対応して、区との協議を行ったうえで目標値設定理由を示しているという理解でよいか。

ゼネラルマネージャー： そうである。

会 長： 職員の待遇面に関する対応については、評議会の提言をコンソーシアム各社に伝えたということか。

ゼネラルマネージャー： そうである。

会 長： 読書振興センターに関する指摘については、基本的には既にやっているということか。

- 千代田図書館長： 教員との連携による「授業支援」にも積極的に取り組んでいただきたいという提案もあったが、実際には実施しているという認識である。
- 会 長： 児童サービスに関しては、ブックリストは統一のものを作成する方向で、今後、研修を増やすということとということだが、具体的な回数をパフォーマンス指標の目標値などに反映させないのか。
- 千代田図書館長： 今年度検討し、なるべく発行するような方向でいきたい。
- 会 長： 平成 30 年度の業務計画には入っているのか。
- ゼネラルマネージャー： 業務計画には入っていない。
- 会 長： 全体を通して、いつまでに何をするのかよくわからない。今年度中にできるのか。具体的にプランに入れていただきたい。
- 千代田図書館長： 今年度中を目標としている。検討して早急に対応しようと思っている。児童サービスについては四番町図書館が中心に行っているが、四番町図書館の仮施設移転準備もあるので、四番町図書館と千代田図書館のどちらが中心にやるかということを決めてから作業することになる。
- 会 長： 今年度中は難しいということか。
- 千代田図書館長： 今年度中に作成する。
- 会 長： 外部研修への参加回数は、何回増やすのか。
- 千代田図書館長： 東京都主催の研修や担当企業内の研修以外の研修を 1 ～ 2 回増やす。
- 部 会 長： 評議会の 14 の提言に対する取り組みにおいて、具体的な数値の説明がないことで、会長が内容確認を行っているが、PDCAサイクルの観点からすると平成 30 年度の業務計画に反映されてしかるべきではないのか。提言への取り組み状況の報告と並行して、業務計画にどのように反映されているのか説明していただくと、PDCAサイクルの検証がこの場でできる。業務計画との関係を伺いたい。
- ゼネラルマネージャー： 提言とは連動はしていないが、業務計画作成の際は、評価やご意見などを鑑みて作成している。
- 部 会 長： 業務計画に反映されているのであれば、対応状況の説明の際に言及すればよいのではないかと。業務計画を作成するに当たって、提言とリンクさせていないという理解でよいか。
- ゼネラルマネージャー： リンクできるものとできないものがあり、完全にリンクしているとは言えない。例えば職員の待遇についてなどは業務計画には載せられない。
- 会 長： 業務計画にどのように反映されたのか説明いただきたいと思ったが、今回のようなやり方は初めてなのと、提言がまとまったのが 3 月だったため、既に業務計画が作られていたという時間のずれも関係しているのかもしれない。しかし、この提言への対応の資料は 5 月に作成しているので、もう少し具体的に回答いただきたかった。この提言は委員の方々の意見をまとめたものなので、できるだけ具体的に説明していただきたい。「検討します」、「早急に対応します」というだけのやり取りでは意味がないと思うので、次年度の業務計画では明確にしていきたい。
- 委 員： パフォーマンス指標の感想になるが、千代田区立図書館のパフォーマンス指標では、区民のためという側面の評価はどこにあるのか。例えば、「平成 29

年度千代田区立図書館年報」P. 22 の区民総登録率の数値を見ると 25.1%となっているが、外国では 50%ぐらいの国もあるので、もっと高めていける可能性がある。区民のための図書館という業務計画を立て、そのためのパフォーマンス指標として何を考えていくという視点が不足していると感じた。

また、職員待遇について 10 年ほど前に、公共サービス基本法が制定されたが、指定管理者として意識しているのか。マナーの悪い利用者への対応のほか、利用方法そのものが区民の要望に合っていないというところがある。そのマナーと利用方法そのものに対する苦情というところの対応は、どのようにしているのか。図書館の司書は、感情労働という言葉があるが、非常に難しい立場で労働している。職員たちの働きやすい環境をつくっていくという意味は非常に大きいと思うが、指定管理者としてどう対応していこうと考えているのか。

千代田図書館長： そうだと思うが、それを具体的な形として出すのは難しい。

会 長： では、P. 18 の⑦出版にまつわる本棚から⑭利用案内まで説明をお願いします。

千代田図書館長： ⑦出版にまつわる本棚については、一般書架と分散しているということもあり、また、書棚も限界があるので、再度ニーズ等を調査し、再構築をしていきたいと考えている。

⑧地域資料・参考図書の収集については、ご指摘のとおりである。改めて意識をし、毎週行っている選定会議で漏れのないよう収集していく。

⑨商用オンラインデータベース・国立国会図書館デジタル化資料サービスについては、これまでも「情報探索講習会」を実施しているほか、レファレンス対応の際に、利用者に代わって図書館員が操作しているが、今後は、日常の対応の中でデータベースの使い方を説明していくことをやっていくことが大切だと思っている。

⑩貸出・予約サービスについては、所管課と協議の上、図書館の規定・基準の整備も含めて対応していきたいと思っている。

⑪書籍消毒器については、まちかど図書館では、閲覧席の要望もあり、消毒器設置場書の確保が難しい。予算も含めて検討させていただきたい

⑫OPACについては、利用者からの様々な意見も含め、利用状況等を把握して対策をとっていきたい。区におけるシステム事業者との定例会議でも、利用者の意見をあげている。

⑬昌平まちかど図書館と神田まちかど図書館については、ニーズの把握に努めて、千代田や四番町で行っているようなイベントをやりたい。

⑭利用案内については、日常的なインフォメーションが大切だと思っているので、職員全体で改めて認識をすると同時に、館内掲示についても目立つように立て看板のようなものを用意して、インフォメーションを確実にできるようにする。

委 員： 千代田図書館のおはなし会の参加者が神田まちかど図書館にかなり流れたと書かれていたが、口コミだけで変わってしまうものなのか。

千代田図書館長： 千代田図書館に来ていた神田地区の中心になる方たちが、神田まちかど図書館のおはなし会に参加するようになった。神田では試験的に開催しているが、これからは、定期化の方向で検討していきたい。

会 長： ⑦出版にまつわる本棚に関しては、今年度は調査ということでよいか。

千代田図書館長： まずは調査をする。

会 長： ⑧地域資料・参考図書の収集については、改めて意識しましたということか。

千代田図書館長： そうである。

会 長： ⑨商用オンラインデータベース・国立国会図書館デジタル化資料サービスに関しては、既に対応しているということによいか。

千代田図書館長： レファレンスの対応の中で浸透を図っていきたいということである。

会 長： ⑩貸出・予約サービスについては、今年度中に区と協議するということか。

千代田図書館長： そうである。

ゼネラルマネージャー： 今年度の来館者アンケートのデータをもとに提案したい。

会 長： 所管課との協議は、複数回行われているのか。

ゼネラルマネージャー： この件も一度相談はしているが、根拠になるデータを取ってから検討することになっているので、事前にアンケートを行う。

会 長： ⑪書籍消毒器については、設置場所があれば実現するのか。

千代田図書館長： 設置場所と予算が必要である。

ゼネラルマネージャー： まちかど図書館で設置場所の確保ができるようであれば、予算要求して次年度の業務計画の中に入れていきたい。

会 長： 今年度の対応はできないのか。

ゼネラルマネージャー： 今年度の予算については昨年の夏に要求しているため、今年度は予算化していないので難しいが、置き場所の問題がクリアできるのであれば、所管課と相談をしていきたい。

会 長： 予算について所管課と相談するということによいか。

ゼネラルマネージャー： 今年度の実行予算には入っていないので、設置場所が確保できれば、次の段階として、流用について相談をしていくことになると思う。

会 長： 評議会から意見が出ているということを確認いただき、設置場所について前向きに検討して進めていただきたい。

委 員： ⑬昌平まちかど図書館と神田まちかど図書館における新たな企画というのは、どういうものを検討しているのか。

千代田図書館長： 例えば、ぬいぐるみのお泊まり会のような、地域の子どもたちが楽しめるような企画を継続していきたい。

委 員： まちかど図書館はイベントスペースがないので、小学校と併設している1階のミーティングルームのようなところを利用して、ワークショップなどをやってほしいという声もある。

ゼネラルマネージャー： 利用が多く予約が取りづらい状況である。

委 員： ⑦出版にまつわる本棚に関して、業務計画の資料収集計画の中には、ビジネス資料についての記載はあるが、出版に関する資料の記載がないが、収集方針のようなものを示す必要があるのではないか。

千代田図書館長： 業務計画の中には記載がないが別途ある。

委 員： 方針があるなら、ここにも示してほしい。

また、⑧参考資料については、千代田図書館も問題はあるが、日比谷図書館文化館もそろっていない。日比谷の英語の辞書などもかなり古い資料しかない。

いうことは認識しているのか。

ゼネラルマネージャー： 認識はしている。

千代田図書館長： 日比谷図書文化館は、複雑な経緯で区立図書館なったこともあり、貧弱な蔵書構成から、今一生懸命、予算の中で補充しているところである。

委員： やむを得ない部分はあるが、ある程度は力をつけてほしい。

⑬昌平まちかど図書館と神田まちかど図書館については、様々な行事をやるのは非常にいいと思うが、蔵書構成において小説中心でいいのか。アンケートをとるなど利用者の需要を把握して、利用者にとって魅力的な図書館になるよう現場の司書を中心に一生懸命考えてほしい。

会長： ⑭利用案内については、掲示を改善したということか。

千代田図書館長： そうである。

委員： 図書館の命は蔵書だと思っているが、P. 25 別紙 2 のパフォーマンス指標“②セカンドオフィスにおけるビジネス資料の充実”の「ビジネス関連の図書の充実度」の 29 年度実績 83. 95% に対し、30 年度の目標値は 85. 0% ということは、ほぼ昨年実績ぐらい満足していればいいという理解でよいか。

ゼネラルマネージャー： 昨年度を超えたいと考えている。

委員： “④クリエイトする書庫”の「蔵書の満足度」は 29 年度実績が 83. 95% に対し、今年度目標値が 84. % ということ、で、「ビジネス関連の図書の充実度」と、ほぼ同じ目標を持っているということになる。千代田図書館はビジネスの蔵書に非常に力を入れているということだが、ビジネス書は古くなったらすぐ価値がなくなる。そのため、最新のを常に取りそろえていくことがビジネス書の満足度をあげる唯一の方法であることから、出版されたものは全部買っていないと 100% 満足にはならないという状況が生じると思う。図書館として目標値 85% という数字を出しているということは、15% は妥協点なのだろうと思うが、その妥協点の指標というのをどのように考えているのか。

ゼネラルマネージャー： そのような考え方は初めてである。

委員： 100% 集めるのは無理だと思うが、ビジネスの蔵書をうたっている以上、絶対ほかには負けない数字を出すというのがパフォーマンス指標に表示されなければいけないのではないか。例えば全国の図書館レベルに比べて 85% は優秀な数字なのかもしれないが、うたっている言葉に対して d 妥協点の 15% はすごく大きいのではないか。

会長： 少し考えていただきたい。やはり出版年が新しいかどうかというのが指標になるという指摘か。

委員： ビジネス書を標榜していいのかという疑問もあるが、標榜している以上は、そういうところを考えたほうがいいのではないかということである。

委員： ビジネス書は禁帯で貸出できなくなっている。例えば「一般理論」を書いたイギリスの経済学者のケインズ全集や、サミュエルソンの経済学の教科書で日本語に翻訳された最新版ではない本がビジネス書に分類され借りられない。

千代田図書館長： 古典的なものは、それを参考にしたい人もいるので、もう一度基準を見直したいと思う。

委員： 先ほどの補足で、一般書全般の満足度の目標値 84% に対して、ビジネス書は

85%で1%しか目標値が違わない。ビジネス書をうたうなら10%ぐらい増やしてはどうか。

部会長： アンケートをもとにビジネス関連図書の充実度の比率を出しているが、アンケートの質問項目の充実度というのはどのように計っているのか。

ゼネラルマネージャー： アンケートで「満足」、「ほぼ満足」、「やや不満」、「不満」のうち「満足」と「ほぼ満足」を足したものである。

千代田図書館長： アンケート結果は、評価資料P.31以降を参照して欲しい。

会長： ビジネス書については、貸出資料とするか禁帯出とするかは、基準を考えるとという回答でよいか。

千代田図書館長： 結構である。

会長： それでは次に、P.19 評価部会による次年度に向けた指定管理者に対する提言に対する対応について①読書振興センターの担当者の業務内容から⑤「読書コンシェルジュ」の活動実態の明確化までの説明をお願いしたい。

千代田図書館長： P.18からの「読書振興センター」「読書振興活動」「子ども読書活動推進計画」「読書コンシェルジュ」についての前文を前提としての回答ということで理解いただきたい。

①読書振興センター担当者の業務内容についての指摘については、業務内容をわかりやすくして、それぞれに必要な研修、指導を行っていく。

②読書振興センターの組織体制については、つくった経緯もあるようだが、もう少しわかりやすくしないといけないということは認識している。

③各年度の「千代田区立業務計画書」と「第2次子ども読書活動推進計画」との対応関係については、1対1対応ではなく、業務計画は担当ごとに書いているので、比較がしにくいのかと思う。基本的には学校支援担当と児童担当の司書が、子ども読書活動推進計画の実践部分を記述しており、読書振興センター職員は、その推進計画を含めて幅広い年齢層を対象とした業務を記述している。この業務計画のつくり方に問題があるのであれば、見直さないといけないと思う。

④業務内容の質的評価の必要性については、アンケートによる満足度など、質的評価を取り入れる方向で検討し、パフォーマンス指標等にも入れていきたい。

⑤「読書コンシェルジュ」の活動実態の明確化に関しては、「第2次子ども読書活動推進計画」で新規追加項目として“読書コンシェルジュの配置”が記述されているが、日常的には、「読書コンシェルジュ」という名称ではなく、学校支援司書と児童担当司書がその業務を行っており、学校支援、児童担当という名称で活動自体は行っている。

会長： 「「読書コンシェルジュ」という呼称が独り歩きしてしまい」とあるが、第2次子ども読書活動推進計画に新規で「読書コンシェルジュ」を区が挙げているのであって、事業者は、それに基づいて活動を行うことが役目ではないか。

千代田図書館長： 実際にその業務は行っているなので、児童担当と学校支援担当を「読書コンシェルジュ」と位置づけるということであればそのようにする。

会長： そうすることが一番わかりやすくなる。

では、評価部会からの指摘に関する対応について部会長から意見をいただきたい。

部 会 長： 5点の提言に対する回答を示していただいているが、評議会の 14 の提言と同様、具体的にどのように検討し、実施に結びつけていくのかわかりにくい。それをこの場で逐一確認している状況が気になっている。一方 P. 20 の総合評価の対応では、非常に深刻な事態になったためか、下から 2 行目に「検討・実施します」と、はっきり実施について言及している。表現を使い分けているのかもしれないが、もう少し具体的に書き入れるべきではなかったのか。さらに、業務計画に反映されているのかというところが一番知りたいところだが、それが明確になっていないというのが問題である。「読書コンシェルジュ」のように計画で書かれていることが実態としてよくわからないというのは、計画に基づいた事業活動ができていないことの表れになっているのではないか。PDCA サイクルに則って進めていただくべきだと感じた。また、P. 19 に「以上を前提として以下回答を示します」とあるが、この前提の文章が回答内容にどのように反映され、生きているのかわからず、評議会からの提案をどのように捉え、どのように変えようとしているのかというところも読み取れないというのが正直なところである。

会 長： 評価部会からの提言についても、「～検討していきます」だけではなく、具体的に対応していただきたい。

以上が評議会と評価部会からの提言に向けた対応ということになるが、次回評議会の議題一つとして、引き続き具体的な取り組み状況を報告していただきたい。また、組織に関しては、評価部会の提言②の読書振興センターの組織の話と、評議会の提言の②の組織については、対外的には極めてわかりにくい。実際の組織を変えなくても、業務中心の組織図など見せ方を工夫する等わかりやすい形にしていただきたい。

次に、平成 30 年度の業務計画書について、前年度と比べて変わったポイントを説明して欲しい。

ゼネラルマネージャー： 基本的には大きく変わっていないところはない。新しく今年度から始めたものはなく、前年度のものを踏襲している。

会 長： 新規とか、重点的に取り組むことなどメリハリがつくと理解しやすいので、次年度の業務計画書を策定する際は、提言とパフォーマンス指標と業務計画が一体となるような形になるようにしていただきたい。

委 員： 最後に、複本は基本的に買わないという理解でいいのか。

千代田図書館長： 各館 1 冊ずつということにしている。

委 員： 児童書も同じか。

千代田図書館長： 児童書も同様だが、今後の検討課題だと思っている。

会 長： では、今回は昨年度と同じように、今年度の提言をまとめるにあたり、事業者に質問をして回答いただくことや、今日、報告があった提言に対する対応の進捗状況について説明いただきたいと考えている。また、委員の方々には、次回に向けて、事前に図書館に対する質問などの提出をお願いしたい。

3 議題

< (1) 図書館評議会における平成 30 年度評価対象項目【協議】 >

会 長： 評価部会に対して調査を依頼する今年度の評価対象を決めたい。評価対象に

については、評議会の提言の④にあるように、図書館職員の待遇や研修体制、職員間のコミュニケーション等、職員に対する意見が多くあったことから、事前に評価部会と区と考へ、今年度は、図書館職員に対する評価を提案させていただきたい。具体的な調査方法等に関しては評価部会に一任するというこゝで、皆様がよろしければ、了承、承認いただきたいと思うが、いかがか。

《 承 認 》

会 長： では、評価部会ができる範囲で「職員について」を評価対象に調査をすることとする。事業者の方には、評価部会の調査について協力をお願いしたい。

ゼネラルマネージャー： 調査対象となる職員の範囲を知りたい。また、個人情報等デリケートな部分は回答できないこともあることを理解いただきたい。

部 会 長： 評価部会に持ち帰り検討することとする。個人が特定されないよう配慮するが、個別のヒアリングは可能か。

ゼネラルマネージャー： 協力はするが、質問内容やその職員に聞く目的などを事前に確認させていただき判断したい。

千代田図書館長： 勤務シフトの関係もあるので、時間の調整が困難な場合もある。

部 会 長： そのようなことも踏まえて現場の方にヒアリングできるよう検討する。

会 長： 事業者の方には、できるだけ協力いただきたい。

4 その他

< (1) 次回日程 >

文化振興課長： 次回の第2回図書館評議会は、12月頃の開催を予定している。詳細は追って事務局より連絡をさせていただく。では、本日の図書館評議会を閉会する。